

岡山大学大学院 保健学研究科 保健学専攻 検査技術科学分野/ 医学部保健学科 検査技術科学専攻

柴 倉 美砂子*

I. 本校の沿革

本学は、明治3年岡山藩医学館として誕生し、岡山医科大学を経て昭和24年に岡山大学として創立されました。“高度な知の創成と的確な知の継承”を理念とする、我が国有数の11学部を擁する総合大学です(写真1)。昭和39年4月、岡山大学医学部に併設された附属衛生検査技師学校に加え、附属看護学校、附属診療放射線技師学校と共に、昭和61年10月、岡山大学医療技術短期大学部となり、さらに平成10年10月、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3専攻を有する医

学部保健学科となりました。現在では、1学年で看護学専攻80名、放射線技術科学専攻40名、検査技術科学専攻40名の学生を受け入れています。平成15年には大学院保健学研究科修士課程、平成17年には大学院保健学研究科博士後期課程が設置されました(写真2)。

II. 保健学科の教育理念・ディプロマポリシー

保健学科では、人間の主体性を尊重し、様々な健康レベルの人々に対して質の高い医療が提供でき、医療の発展と国際化に貢献できる人材を育成することを目標として、ディプロマポリシーを以



写真1 津島キャンパス時計台



写真2 鹿田キャンパス医学部正門

*保健学研究科 保健学専攻 検査技術科学分野 m_shiba@md.okayama-u.ac.jp



写真3 保健学科棟

下のように設定しています(写真3)。

1. 人間性に富む医療のための豊かな教養

自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

2. あらゆる人々の健康推進のための専門性

あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、科学の進歩を健康に関わる技術開発や問題解決に活用し、社会に貢献できる。

3. 健康ニーズに応え、発信する情報力

住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析すると共に、成果を地域や世界に向かって情報発信する能力を有している。

4. 医療・保健に関するリーダーとしての行動力

医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、地域や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と社会をリードする行動力を身につけている。

5. 健康的な生活を追い続ける自己実現力

患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と文化やスポーツを享受する姿勢を持った医

療人として、生涯に亘って学び、楽しみ、自己実現がはかれる。

III. 各科における育成

検査技術科学専攻では、特に臨床検査医学の専門性を備えたスペシャリストの養成、新しい検査技術の研究・開発など課題解決能力を有する研究者の養成、さらにグローバルな視点を持って医学の発展に貢献できる人材の育成を目指しています。

また、保健学研究科においては、博士前期課程・後期課程ともに、「ヘルスプロモーションの実践と確立」を目標理念としています。博士前期課程では、コメディカル分野の高度専門職や専門性の確立に貢献できる教育・研究者の養成を目的とし、現在、助産学コース、がん看護専門看護師コース、医学物理士コース、放射線安全管理・応用学コース、細胞検査士コースの専門職育成コースを設置しています。博士後期課程では、各分野の専門的知識を基に、保健・医療・福祉に関係したプログラム・システム・機器・技術の研究・開発能力を持ち、研究、教育に指導的に携わる人材の育成を目指しています。

IV. 特色と実績

保健学科は、創設当時より1年次にガイダンス



写真4 農学部との共同実習風景

科目として、課題探求・自己解決能力の育成を目的とした「チーム医療演習」が配置されています。平成28年度より、医療のグローバル化にむけて、英語によるコミュニケーション能力のレベルアップを目指す海外班も作られ、台湾やミャンマーの病院や大学での研修に参加しています。保健学科のもう一つの大きな特色は、解剖実習の見学や実技が行えることです。特に、検査技術科学専攻においては、解剖実習が必修科目となっており人体の解剖学的、生理学的知識を身に付ける貴重な機会となっています。

検査技術科学専攻を修了して国家試験に合格すれば臨床検査技師の国家資格が得られますが、臨床検査技師の可能性を引き出し、幅広い分野で活躍できる人材を育成するために、在学中から各種資格の取得を推進しています。平成23年度より一般社団法人日本食品安全協会の健康食品管理士養成校の認定を受けており、所定の科目を履修すれば在学中に健康食品管理士認定試験を受験できます。これまでに、101名が受験し98名の合格者を輩出しています。

また、平成25年度より本学農学部と共同で立ち上げた「生殖補助医療技術キャリア養成特別コ

ース」においては、生殖補助医療技術を系統立てて学ぶ事が出来ます。本専攻の必修科目に加えて、農学部で開講される講義や実習を履修するため、コース生にとってはハードなスケジュールではありますが、生殖補助医療の現場に就職するコース修了者が増えてきています(写真4)。

おわりに

岡山大学は、平成26年度より我が国のグローバル化を牽引する大学として取り組んでいます。保健学科・保健学研究科も、医学科、医歯薬学総合研究科、岡山大学病院と密接に連携し、学生の留学を推進し、海外からの留学生や研修生を受け入れています。平成28年度より導入された60分授業、4学期制への移行時に、2年次2学期を必修科目のない期間として設置しました。これにより、国家試験の取得を目標とする学科において、在学中の留学は困難と考えられていましたが、学生は夏季休暇と合わせた8週間以上の留学が可能となりました。始まったばかりの、本取り組みが、今後の臨床検査技師育成へ与える好影響が期待されます。(本記事は、岡山大学ホームページを参考にしています。)